

1 派遣期日 令和元年 9月28日(土)

2 研修先 学校名 岩手大学教育学部附属特別支援学校
 所在地 岩手県盛岡市東安庭 3-4-20
<https://www.edu.iwate-u.ac.jp/futoku/index.html>

3 研修内容

(1) 視察校における研究への取り組み

研究主題：「児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり」
 －観点別評価の取り組みを通して－

岩手大学教育学部附属特別支援学校では、「今」という視点に注目し、「今」の主体的な生活の積み重ねが将来の主体的な生活の実現につながると考え、「児童一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり」を研究主題に掲げ、授業づくりに取り組むこととした。平成30年から令和元年度は、「観点別評価の取り組みを通して」を副題に、観点別評価を生かし児童生徒の「主体的に活動する姿」を目指した授業づくりの深化を図ることとした。

① 「主体的に活動する姿」を目指した授業づくりについて

児童生徒一人一人が今、自分の力を発揮して「主体的に活動する姿」を日々の授業で実現するために「授業づくりの視点」を設定した。5つの視点で構成し、全校で一貫した授業づくりを行う上での手掛かりとした。「授業づくりの視点」を基に指導案の様式を検討し、評価については、「主体的に活動する姿」を目標にしてより適切に個に応じた目標と支援の設定の手立てとして「観点別評価シート」を作成した。

【授業づくりの視点】

授業づくりの視点	授業づくりの視点の具体的内容
① 単元の設定 学部目標に基づいて目標を設定 「どの生徒児童も目的をもち取り組める単元に」	○児童生徒の実生活に結びついた単元 ○興味・関心や願いを取り入れた単元 ○活動の流れやつながりが明確な単元
② 単元の計画 単元の目標に基づいた指導計画 「中心になる活動を繰り返す計画に」	○まとまりのある計画 ○繰り返すことで活動を積み重ねることができる計画 ○発展性のある計画
③ 活動内容 単元の計画を推進するための授業の展開 「どの児童生徒も存分に活動できるように」	○集団の中で、人と関わり、自分の役割を遂行できる活動内容 ○自分のもっている力を生かし、やりがいを感じられる活動内容 ○自分で考え、行動できる活動内容 ○達成感、充実感を得られる活動内容 ○自己選択・自己決定できる活動内容
④ 学習内容への支援 教材教具・場の設定・教師の働き掛け 「分かって動き、十分に活動できるように」	○児童生徒が自分でできる教材・教具 ○自分から活動できる教材・教具 ○十分に組み組める活動量と教具 ○活動しやすい道具の配置、動線 ○児童生徒が自分で行えるような教師間の連携(T-T)
⑤ 協働的活動への支援 児童生徒同士の関わりへの支援・教師との関わり 「教師も共に活動しながら、共感的に支援できるように」	○共に活動する友達に関心を向け、友達や教師と共に活動できるようにする。 ○教師は児童生徒と共に活動し、児童生徒の自分でできる状況を作るような適切な関わりをする。

② より「主体的に活動できる」授業づくりを目指して

観点別に目標を立てるのではなく、児童生徒が「主体的に活動する姿」を目標とし、単元ごとに評価を積み重ねていき、1学期の個別の指導計画の目標に対応した評価を3観点で行うことで個別の指導計画のとの関連付けを図った。

図4 「観点別評価シート」の共通様式

1学期の目標 (個別の指導計画より)			
② 個別の指導計画の1学期目標			
単元名 期待する姿 (年間指導計画より)	個別の単元目標	支 援	評 価
① 年間指導計画から期待する姿 (単元目標)	③・1 個別の単元目標と支援及び評価		④ 各単元の評価
② 年間指導計画から期待する姿 (単元目標)	③・2 個別の単元目標と支援及び評価		
観点別の評価		④ 個別の指導計画の目標に対応した評価	
「知識・技能」			
「思考・判断・表現」			
「主体的に学習に取り組む態度」			

4 授業を参観して

まず、作業室にある機材が本格的なものばかりで驚いた。クラフト班では工務店と同じ機器があり、生徒が使いやすいように補強されていたり補助具が付けられていたりした。授業が始まり生徒は教師の話をよく聞く姿勢ができていた。話の中では今日の目標数が重視されていて、掲示物でも今までの頑張りが分かる掲示物がほとんどであった。作業が始まっても、教師の支援はほとんどなく、生徒が黙々と作業を行う姿ばかりだった。長時間の作業が難しい生徒には休憩を取るスペースも確保されていて、そこで落ち着くことができるように支援されていた。

【授業実践の例】

(1) 中学部 クラフト班

作業分担がそれぞれに生徒の特性に合わせてあり、作業の手順がしっかりと身についており、それぞれが一人で作業を行っていた。支援として、サンダーをかける生徒がどのぐらいで止めたらいいか分からないので、タブレット端末に先生がカウントを録音し、それをイヤフォンで聞きき、止めるタイミングが分かるようになっていたのは、タブレット端末の新しい使い方だった。それによりこの生徒も一人で作業ができるようになっていた。

【クラフト班作製のくまのマグネット】



裏は塗り絵が得意な生徒が塗り絵を担当し全員で製品を製作

(2) 中学部 園芸班

ラベンダーのポプリづくりで、今日の自分の作業ではない作業をやりたい生徒に対して、止めることなく臨機応変に作業をさせていた対応がよかった。生徒同士で数える作業を手伝っている姿が見られ、日頃から生徒同士の関係性がよいのだろうと感じた。

(3) 中学部 石けん班

攪拌の作業で、教師が話しながら行っていることに疑問を感じる参観者の質問があり、2、30分の攪拌の作業を黙々となすのは難しいので、場を和ませるために行っていると聞いて、なるほどと思った。石けんづくりの作業を見たのは始めてだったが、力と根気いる作業が多く、教師の生徒への心の支援が大切だと思った。

5 感想

全体会・各学部会、講演会まで参加して、自立を目指す取り組みは学校全体が一丸となって、保護者や地域や行政をも巻き込み、時間がかかっても続けなければならないことを痛感した。観点別評価の取り組みを実施するに当たり、単元が始まる前に学部や学年、担当者での打ち合わせの時間をかなり取って目標を設定し、作業が終わってから観点別評価を担当者全員で行っていた。複数人での評価が行われている点やミーティングの時間の確保など、授業が始まる事前準備の点でこれからの仕事への取り組みの参考になった。